

リヤマともひろば

活動場所：1年2組教室、原っぱ
 6月4日（火）13：55：～15：00
 提案者：小林 健太

1 子どもの思いの連続

4月、リヤマとの出会いを思い描いた子どもは、リヤマを迎えるにあたってどのような準備をしたのか、思考しながら活動をひろげ始めた。リヤマが原っぱで過ごすための柵を立てたいと考えた子どもは、原っぱに杭を打ち始めた。一人では打つことが難しい長い杭を、仲間と協力して打ち込んだ。立てた杭に電動ドライバーで横木を留めて、赤や黄色のペンキで色を塗って柵を仕上げた。

5月9日、リヤマが学校にやって来た。子どもは初めて出会うリヤマのふわふわの毛並みや、つぶらな目、そして大きな体に「かわいい」「さわりたい」と思いを膨らませ、リヤマに駆け寄った。リヤマが食べるものは何だろう、リヤマには乗れるのだろうか、リヤマは何歳なのか、子どもはリヤマと出会うまでに抱いていた疑問を、スエトン牧場の藤原さんに投げかけ、教えていただいた。

その日から、子どもとリヤマの生活が始まった。朝登校するとリヤマのもとに出掛けたり、休み時間のたびにリヤマのもとに出掛けたりして、いつもリヤマのことを気に掛けている子どもがいる。リヤマのために、毎日家庭から野菜を持ってくる子どもがいる。リヤマと共にある生活が学校生活そのものになっている。

また子どもは、まだ名前のない0歳のリヤマに、名前をつけたいと願いをもった。自分の名前の由来を家族に尋ねたり、リヤマへの願いや思いを話し合ったりしながら、リヤマに「リーフ」という名前をつけた。話し合いの中で、自分の思いを主張するだけでなく、仲間の思いに耳を傾けることの必要性も感じながら、学級の仲間と共にある学校生活をつくっている。

2 本時のねらい（本時における自分をつくり未来を拓く子どもの姿）

原っぱや教室でリヤマと共にある生活をつくることを通して、自分の思いや願いを実現したり、学級の仲間の存在を感じたりしながら、学校生活の楽しみをつくる。

3 本時の構想

○ リヤマとの生活をひろげる

子どもは、一緒に原っぱを散歩する、餌をあげる、小屋や柵の中を掃除する、柵を直す、新しい柵を立てるなど、それぞれの思いや願いを基にリヤマと共に過ごす時間を過ごしている。リードを引いてリヤマと散歩を楽しみたいと願ったり、たくさんの餌を食べてほしいと願ったり、リヤマが過ごす場を作り変えたいと願ったりと、もっとリヤマとの生活を楽しくしたい、豊かにしたいという願いを基に子どもは動く。自分の思いや願いを話し、他者の思いや願いを聞くことで学級の仲間の思いに触れながら、自分なりのリヤマとの生活をひろげていく。

4 本時の展開

81・82M/全430M (65分)

時間	番号；子どもの活動 ・；子どもの姿	○；教師の手立て
10	<p>1 リヤマとの生活について話す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーフと共に、原っぱを歩きたいと話す。 ・リーフがたくさんの草を食べたり、日陰で過ごしたりできる場所に柵を立てたいと話す。 ・リーフのためにたくさんの餌を集めたいと話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○リヤマが学校で生活したり、自分がリヤマと共に生活したりするために、したいことを尋ねる。 ○自分の思いだけでなく、仲間の思いにも耳を傾けることができるようにする。 ○教師も子どもと共に活動する。
35	<p>2 自分なりのリヤマとの生活をひろげる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リードを引いて、リーフと散歩をする。 ・電動ドライバーで横木を留めて、柵をひろげる。 ・リーフの餌になる草花を集める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの姿、リヤマの姿を紹介し合うことができるようにする。 ○仲間の活動にも思いをひろげることができるようにする。 ○子どもの姿を見とり、次時の活動を思い描く。
20	<p>3 本時の活動を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動しながら感じたことや考えたことを話す。 ・シートに活動の振り返りを書く。 	

